「自己の生き方についての考えを深める」

を重点とした道徳科の授業づくり

第３学年　道徳科学習指導案

1　主題名「こまっている人のために」（内容項目：B―６　親切、思いやり）

2　教材名「手伝う心」（出典「小学どうとく　はばたこう明日へ」教育出版）

3　主題設定の理由

道徳科においては、毎回の授業後に、内容項目に合ったポスターを作成し、教室に掲示する取組を進めることで、児童がふとした瞬間に道徳的価値について振り返ることができるような環境づくりに努めた。また、日常の様々な場面において、学級であった出来事をもとにして、他者との関わり方について話し合う機会を意図的に設定してきた。この積み重ねもあり、一部の児童には、思いやりをもって行動したり、相手の気持ちを考えながら関わったりする姿が見られるようになってきた。一方、多くの児童には、つい相手の気持ちを考えずに行動をしてしまい、トラブルになってしまう場面も見られる。

本時では、困っている人に対して、どのように接していけばいいのかを考える。「助けてあげる。」という表面的な感想にならないように、自分のこととして想像し、相手の気持ちを理解する大切さについて気付かせていきたい。また、ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思い込みがちになることもこの時期の特徴である。他者として、友だちとして、その場に遭遇した時にどう関わることが相手の気持ちに寄り添うことなのかを改めて考える機会にしたい。

本時の展開場面では、クラウドの付箋機能を活用し、個別にじっくりと考えを整理したり、友だちの考えを参照したり、必要に応じて交流したりするなど、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていきたい。また、事前、事後に、クラウドを活用したアンケートを実施し、本時の導入と授業後の一人一人の変容を自覚できるようにしたい。

4　本時のねらい

ひろみさんが「いいよ。自分で取るから。」と、いつになく強い声で言った理由について話し合うことを通して、相手の状況や気持ちを考えて行動する道徳的実践意欲と態度を育てる。

5　本授業のポイント

①事前、事後アンケートを行うことで自己の変容を自覚できるようにする。
②終末段階で、日常生活の中で児童が相手を思いやって行動している姿を紹介し、価値付けることを通して今後の実践意欲につなげる。

6　本時の展開

	学習活動　○主な発問　・予想される児童生徒の発言	・留意点　□評価の観点
導入	**1　事前アンケートを確認** ○　「気づく心」はどんなお話でしたか ・相手のために進んで助けた話。 ○　困っている人がいたら、あなたはどうしていましたか 事前のアンケートを確認	・内容項目『親切、思いやり』について確認し、困っている人がいた時の対応について、日常生活の具体例な場面を交流する。
展開	**2　教材「手伝う心」を読み、話し合う** 登場人物の状況が分かる本文を途中まで範読する ○　あなたがさやさんだったら、ひろみさんが困っていたらなんと声をかけますか ・大丈夫？ ・手伝うよ。 教材の続きを読む ◎　ひろみさんはどのような気持ちから、いつになく強い声で「自分で取るから」と言ったのだろう ・自分でやりたいから。 ・いつもやってもらっているから。 ・その人がいやだから。 ・自分のことは、なるべく自分でできるようにしたいから。 教材の続きを読む ○　さやさんは、なぜ、はっとしたのだろう ・待つことも大事なのかな。 ・大変そうでも、なんでも手伝うのではなく、見守ることも大切だと気が付いたから。 **3　教材を通した気付きに自分を照らし合わせて考える** ○　相手を思いやるとはどういうことだろう ・困っている人がいたら、その状況をみてどうするか決める。 ・これからも困っている人がいたら助けてあげたい。 ・少し様子を見て、声をかける。 ○　今回のテーマは、なんだろう ・思いやり ・親切 ・相手の気持ちを理解	・車いすの「ひろみさん」の状況を理解し、どのような場面で大変なのか想像できるようにする。 ・「自分でできることは自分でしたい」というひろみさんの気持ちに注目させ、親切にするとはどういうことか考えられるようにする。 ・クラウドの付箋機能を活用し、個別にじっくりと考えを整理したり、友だちの考えを参照したり、必要に応じて交流したりできるようにする。 ・自分でできそうなことは見守ることも親切の一つだということに気付くことができるようにする。 □相手を思いやるとはどういうことか、学習を通して考えたことをまとめている。 ・日常の生活で相手のことを考えている児童の姿を紹介し、今後の実践意欲につなげる。
終末	**4　学習を振り返る** ○　今日の授業を振り返り、はじめとおわりで自分の考えがどのように変わったか、また、気付いたこと感じたことから、これからの自分の生き方について書いてみよう	・クラウドで事前､事後の考えを比較し、児童一人一人が自己の変容を自覚できるようにする。